

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>平成30年8月定例教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、小屋松委員と西山委員とする。</p> <p>本日の会議日程について、議第58号及び59号については、「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、議第58号及び59号について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、議第58号及び59号については、非公開とする。</p>		
<p>日程第1 前回会議録承認</p>			
<p>遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>7月26日開催の平成30年7月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前回の会議録を承認する。</p>		
<p>日程第2 事務局報告</p>			
<p>(1) 事業・行事等報告について</p> <p>前回会議(平成30.7.26)以降の事業・行事報告(主なもの)</p> <table border="1" data-bbox="213 1910 1383 2029"> <tr> <td data-bbox="213 1910 563 2029"> <p>7月31日(火)</p> </td> <td data-bbox="563 1910 1383 2029"> <p>臨時教育委員会会議(教科用図書採択) 平成30年度九州地区家庭科教育研究協議会</p> </td> </tr> </table>		<p>7月31日(火)</p>	<p>臨時教育委員会会議(教科用図書採択) 平成30年度九州地区家庭科教育研究協議会</p>
<p>7月31日(火)</p>	<p>臨時教育委員会会議(教科用図書採択) 平成30年度九州地区家庭科教育研究協議会</p>		

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

<p>8月 1日(水) 3日(金)</p>	<p>第42回九州地区小学校特別活動研究大会熊本大会 第46回九州地区情緒障害教育研究会熊本大会 第54回熊本県小学校長会夏期研究大会 小中一貫教育検討委員会</p>
<p>今後の予定(主なもの)</p>	
<p>8月16日(木)</p>	<p>平成31年度熊本市立学校教員採用選考試験(2次試験) (~21日)</p>
<p>23日(木)</p>	<p>第69回全九州中学校長研究大会熊本大会 第2回特別支援学校開設準備委員会</p>
<p>24日(金)</p>	<p>熊本県教育委員会との意見交換会</p>
<p>27日(月)</p>	<p>教育講演会</p>
<p>29日(水)</p>	<p>第3回校長・園長代表者会</p>
<p>31日(金)</p>	<p>第2回教育課程検討会議</p>
<p>9月 3日(月)</p>	<p>始業式 熊本市PTA協議会一斉あいさつ運動 第3回定例市議会開会(~9月28日)</p>
<p>8日(土)</p>	<p>民間放送教育協会 四国・九州・沖縄地区研究協議会</p>
<p>27日(木)</p>	<p>小中一貫教育検討委員会</p>
<p>日程第4 報告</p>	
<p>・報告(1) <u>平成31年度熊本市立学校教員採用選考試験、第一次選考試験の結果について</u></p>	
<p>《木櫛教職員課長 報告》</p>	
<p>・報告(2) <u>平成31年度熊本市立学校管理職採用選考試験の志願状況について</u></p>	
<p>《木櫛教職員課長 報告》</p>	
<p>・報告(3) <u>平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について</u></p>	
<p>《松島指導課長 報告》</p>	

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

西山委員	資料7-7にある「高群」、「低群」とは何か。
松島課長	平均正答率が高い順から10校を「高群」、低い順から10校を「低群」とした。資料7-7は、その2群の平均値を比較したもの。
西山委員	熊本市全体の平均はどうなっているのか。資料7-8~14で、全国平均と熊本市全体の平均との比較ができない。
松島課長	今回の資料7-3~6には、熊本市と全体を比較した資料はあるが、全体的に熊本市全体の平均と全国平均を比較した資料は別途まとめているため、改めてお知らせしたいと考えている。
西山委員	資料7-8を見ると、高群でやっと全国平均に匹敵するくらいか、高群でも全国平均よりやや低い項目もあるので、低群まで含めると、全国平均より悪いということになるようである。
松島課長	そのとおりである。資料7-8の「4 1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」という設問について、資料7-3に熊本市全体の平均と全国平均の比較があるが、中学生では7.9ポイント低く、このようなことが熊本市の課題であることがわかる。
泉委員	学力調査における高群と低群の差はどのくらいか。
松島課長	手元にデータがないため、後ほどお知らせする。
出川委員	学力調査と学習状況調査は、同時に実施されたのか。
松島課長	4月17日に同時に実施している。
出川委員	資料7-7に「差が大きい質問項目」と「差が小さい質問項目」が掲載されており、その表の左側に1~10まで付番されているが、差が大きい順及び差が小さい順になっているのか。

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

松島課長	そのとおりである。
小屋松委員	資料7-3で、「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」という設問で、特に中学校は全国に比べて低いことが気になる。どのような状況か。
松島課長	事務局としても、この点について注目しているところである。学校には授業改善のための意識改革に努めるよう依頼しており、次回は100%になるように、今年度しっかりと学校に働きかけていく。
西山委員	資料7-7で、「差が大きい質問項目」の上位3つが、理科の授業に関する項目である。熊本市の理科教育には、何らかの欠陥があるということか。
松島課長	学習状況調査で高群と低群の差が大きい項目の上位3つが理科に関連する項目であるが、理科の学力調査の結果は、小中学校とも全国を上回っている。この因果関係については、他の要素も絡めて集計し分析する必要があると考える。理科は、国語と算数のようにA・Bに分かれておらず、もしかしたら、基礎的な問題では点数は取れているが、観察や実験をしていなければ解けない問題では点数が取れていない可能性もある。現在小問分析を行っており、しっかりと調べていく。
西山委員	理科の授業で観察や実験の時間を十分に取っているのか気になる。その点はどうか。
松島課長	学校訪問等で見える限りではあるが、観察や実験の時間はしっかり確保されている。但し、観察・実験の後の考察の時間が取られているか、観察・実験について子どもたち自身が計画を立てるといった段取りが取られているかなど、その授業における内容が問題であると捉えている。
遠藤教育長	高群と低群で差が大きいですが、学力調査の平均は全国平均より高いということなので、低い学校は非常に低いという可能性がある。
松島課長	先ほどお話ししたとおり、全体の資料は作成中であり、はっ

<p>出川委員</p>	<p>きりとした数字は出ていないが、高い学校と低い学校の差はかなり大きいという印象である。</p> <p>学力の差について、この科目だけこの学校は正答率が低いといった状況はあるのか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>そこまでの分析はまだできていないが、教科のばらつきは若干ある。また、A・Bと分けて見ても違いが見られる。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>先日熊本博物館の視察に行った際、学芸員が学校に出向き、理科の授業を行う機会を設けているとの話を聞いた。是非、学校にそのことを知ってもらい、できるだけ理科の授業に学芸員を招く取組を行ってはどうかと思う。</p>
<p>松島課長</p>	<p>学校にその活用を進めていきたい。</p>
<p>西山委員</p>	<p>私も博物館を見学し、素晴らしい博物館になりつつあると思う。是非博学連携で、学校が積極的に博物館を活用するよう指導を行っていただきたい。</p>
<p>植木博物館長</p>	<p>これまではリニューアル中ということもあり、学芸員が学校に出向き、授業を行ってきたが、リニューアル後は、学校から博物館に来ていただいて授業に活用いただくことにも積極的に取り組んでいきたい。学校との連携についても更に検討しながら、進めていきたいと思う。</p>
<p>・報告(4) <u>公益財団法人熊本市学校給食会の経営状況について</u></p>	
<p style="text-align: center;">《森田健康教育課長 報告》</p>	
<p>・報告(5) <u>ICT環境整備の進捗状況について</u></p>	
<p style="text-align: center;">《長尾教育センター所長 報告》</p>	

森委員	<p>実物投影装置は買い取りで、こちらに所有権があるということではないか。また、大型提示装置は6年間の賃貸借であり、7年目には返すということではないか。</p>
長尾所長	<p>そうである。</p>
森委員	<p>タブレットについては、「運用管理等業務委託」とあるが、どういうことか。借りるということでも、買い取るということでもないようであり、どのような関係になるのか。</p>
土井教育情報室長	<p>タブレットの端末については、レンタルという扱いである。但し、今回、端末のレンタルだけではなく、研修や保守、運用といったところまで包括して実施する委託契約という形をとった。</p>
森委員	<p>以前教育委員会で東京に視察に行き、文部科学省のモデル校でタブレット端末を導入している学校を見た。そこでも委託契約が行われていて、委託内容は、保守などのメンテナンスがメインではなく、操作方法の指導が重要であり、そのことを主な内容とする契約となっていた。熊本ではどうか。</p>
土井室長	<p>8月中旬から下旬にかけて、先行導入校における操作研修を実施するが、受託業者で主体的に研修の内容やカリキュラムを組み、説明者の派遣も行うことになっている。</p>
森委員	<p>子どもや先生が使用する際の、日常的なサポートはどうなるのか。</p>
長尾所長	<p>日常的なサポートについては、教育センターに配置されているICT支援員がタブレットの活用をはじめ、ICTに関する様々なことについて支援を行うこととしている。同支援員で不足する部分があれば、受託業者とも連携を取りながら進めていくことを考えている。</p>
森委員	<p>それでは、日常的なサポートは業務委託の範囲ではないということか。</p>

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

土井室長	<p>学校現場における操作説明については、基本的にはICT支援員が行う。それ以外の端末の故障や修理等については、受託業者でヘルプデスクを設置し対応することになっている。また、ICT支援員向けの操作研修や情報共有については、受託業者と連携をとって実施する。ICT支援員が表に出るようにしながら、受託業者はそのサポートを行う。</p>
森委員	<p>単純に操作がわからない場合は、詳しい先生が教えてくれるが、プログラムとの関係で不具合が起きているとなると、操作だけの問題ではなく、ある程度専門的なサポートがないと、特に立ち上げの段階は、上手くいかないことがあるので、業務委託の範囲をもう一度十分に検討し、支障なく使用できるように対応することが必要だと考える。</p>
西山委員	<p>iPadを使って、どのような教科で、どのような活用をするのか具体的な計画は立っているのか。</p>
長尾所長	<p>文科省からもiPad等を使った授業活用例が示されており、本市の活用例も提示していきたいと考えている。具体的には、例えば体育の授業で、マット運動を行っている時に、自分の姿は見え、自分では改善点がわかりにくい、iPadで友だちと撮影し合い、撮影した動画を見て改善点をお互いにアドバイスしたり、教師が助言を行ったりして活用することができる。あるいは、算数・数学等において、図形の問題を解く際にiPad等で、平行四辺形を三角形に分けたり、台形を平行四辺形と三角形に分けたりして、公式を作り出す思考の支援を行うことができる。また、iPadを使って、グループで話し合ったことを一斉に大型提示装置に示すことができるため、各グループでどのような話し合いを行っているか全体的にわかり、子どもたちが比較検討しながら考えを広げたり、深めたりする際に活用することができる。このような例を学校に提示しながら、先生方が授業の中でICT機器を授業改善のために使うことができるよう研修等も行っていきたい。</p>
西山委員	<p>社会に出て一番役に立つのは、エクセルを使った表計算の技術だと思う。事務処理や他の分野でも必ず必要となってくるため、授業で行うことができると考えるが、エクセルはソフトに入り、使えるようになるのか。</p>

<p>長尾所長</p>	<p>小学校段階では、エクセルを使うことはあまりないが、ワード等で文書を作成し、自分たちの考え方等をプレゼンで発表することはあると思われる。中学校では、技術・家庭科においてプログラムや役に立つソフト等について学習する機会があり、小学校、中学校それぞれの段階に合わせて学習を行う。</p>
<p>森委員</p>	<p>今の議論は、ICT機器を授業にどう活用するかということであるが、もともと以前からパソコンの授業は行われており、その中でエクセルの使い方についての指導はどうなっているのか。</p>
<p>松島指導課長</p>	<p>中学校では、技術の時間にパソコンを使った学習が多く行われており、プログラミング学習も既に実施しているところである。また、エクセルやワードなどを活用するための基本的な操作についても、技術の時間に補充的に学習しており、ある程度の操作はできるものと考えられる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>今後、そのような表計算等の学習はiPadを使って行うことになるのか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>中学校に関しては、パソコン室はそのまま残すため、パソコンを使った学習になる。</p>
<p>森委員</p>	<p>大型提示装置とは、いわゆる電子黒板のことと思うが、その活用はどのようなことが想定されているか。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>現在、各小中学校には電子黒板が1台ずつ配備され、それ以外は、3教室に1教室分のデジタルテレビが配備されている。デジタルテレビと電子黒板の違いは、デジタルテレビはパソコンからつないだ画像をそのまま映すものであるのに対し、電子黒板は映し出された画像を拡大したり、その画像に線を引いたり、重要なところ書き込みができ、なおかつそれらを記憶することができる場所である。電子黒板は、次の授業の最初の部分で振り返りを行う際にも活用でき、教師と子どもたちの双方向の授業が実現されていくもの考える。</p>
<p>森委員</p>	<p>先日、電子黒板は授業における活用だけではなく、先生方の</p>

<p>長尾所長</p>	<p>負担を減らすことにも非常に役立つという話を聞いた。先生に連絡すべき学校の予定や子どもへの配布物などについては、職員会議や教科会議等で知らせて教室に持ち帰るが、各教室に電子黒板が1台ずつ配備されることになると、そのような連絡事項について電子黒板で知らせれば、職員会議等をしなくて済むし、電子黒板に残るので、正確に連絡できるとのことだった。また、子どもの出欠についても電子黒板が活用できると省力化でき、集計もスムーズになるとのことだった。先生の負担軽減や効率化にも電子黒板が生かされるという面があるので、授業での活用はもちろんのこと、その他においても総合的な活用方法が考えられるべきだと思う。</p> <p>森委員のご指摘のように、授業だけではなく、職員の働き方改革につながるように電子黒板を活用することは良いことである。以前、江南中学校をICT研究指定校とした際、各教室に1台ずつ電子黒板を配備したことがあった。同校では、教科連絡等に電子黒板を活用し、また子どもたちも書き込みを行い、日頃から誰でも見るようにしていた。このように授業以外における活用方法も研究の視点の一つとして加えていきたいと考えている。出欠については、今年度の4月から校務支援システムを新たに導入している。そこに、出欠を入力すると、通知表や指導要録等に反映するシステムになっており、校務支援システムの活用によっても働き方改革に寄与できたと考えている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>電子黒板のメーカーが小中学校で違うのは何故か。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>研修を行う際、中学校単位や小学校単位で行うことが多いため、小学校と中学校それぞれに同じメーカーの電子黒板を使用する方が望ましい。また、電子黒板は元々国内での保有台数が少なく、発注後に製作されるため、台数を確保するために、小学校と中学校でメーカーを分けるもの。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>タブレットの台数について、児童生徒用は3クラスに1クラス分程度とあるが、特別支援学級は一人一台か。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>特別支援学級については、一人ひとりの実態が違うため、一人一台配備する。</p>

<p>遠藤教育長</p>	<p>その場合、ずっと持つておくことができ、持ち帰って家でも使うことができるということか。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>子どもによっては持ち帰って家で学び直す必要がある場合もあり、学力充実の観点から特別支援教育室とも連携しながら、持ち帰りについて検討する。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>3クラスに1クラス分程度配備される児童生徒用のタブレットについては、家に持ち帰って活用することは想定していないのか。3日に1度は可能と思われるが。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>持ち帰りも想定しながら、どのように使用するか考えているところである。LTEでつながっている観点から、持ち帰った時に、子どもたちが色々なサイトにアクセスすることも考えられるため、基本的な使い方のルールや、持ち帰った場合に起きると考えられるトラブル等について検討し、持ち帰りも可能な方向で考えていきたい。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>先ほど、体育の授業などにおける活用例の話があったが、部活動で使いたいという要望も考えられるが、そのことは想定しているか。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>様々な場面で活用してもらえれば良いと思う。それぞれの学校で色々な使い方をし、他の学校に広げていく成果発表会の機会を次年度から設ける予定である。部活動や校外学習での活用も考えられ、昨年度、タブレット活用の研究を行った東野中学校では、教育キャンプで活用したという事例報告も受けている。授業外の活用についても研究を進めていきたいと考えている。</p>
<p>泉委員</p>	<p>タブレットによる教育のイメージがわかりやすいように、教育委員会会議等において、実際使う画面を見て、タブレットでどういう教育ができるのか、一度見ることができるとありがたい。</p>
<p>長尾所長</p>	<p>簡易なデモンストレーションを実施するとともに、イメージを持っていただくために、以前先進校で実施したタブレットを活用した授業例等をお見せする機会を持ちたいと思う。</p>

<p>遠藤教育長</p> <p>長尾所長</p>	<p>教員にも一人一台配備されるので、持ち帰って、教材研究等を行っていいのか。</p> <p>そのように考えている。</p>
<p>・報告(6) 「学校改革! 教員の時間創造プログラム」の進捗状況について</p>	
<p style="text-align: center;">《橋爪教育次長 報告》</p>	
<p>西山委員</p>	<p>学校への留守番電話の設置について、子どもが行方不明になった場合などの緊急時に、保護者は慌てて学校に連絡すると思うが、時間外の連絡の場合、留守電になっていると保護者は困惑するのではないか。</p>
<p>橋爪次長</p>	<p>学校ごとに保護者啓発を行い、今後の時間外の緊急対応については、警察に連絡をしていただくことになることを伝えていく。県警に学校の緊急連絡先として各学校長の携帯電話の番号を全て知らせてあるので、県警から学校にも連絡がとれる体制となっている。</p>
<p>西山委員</p>	<p>保護者からすると、警察に連絡するのは、ハードルの高いことである。自分も子どもの帰りが遅く、帰ってくるかもしれないが、心配で学校に電話をした経験がある。警察が連絡先となると、かけづらいという保護者からのクレームが来ないか、事前説明で理解が得られるか心配するところである。</p>
<p>橋爪次長</p>	<p>現在学校には、時間外や土日を問わず、問い合わせ等の電話がかかっており、ある程度時間を区切り、他の公的機関と連携して対応する体制をとろうというものである。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>警察よりも気軽に電話がかけられるということは、保護者にとってはいいところかもしれないが、本当に必要なものでなくても、気軽に様々な電話が学校にかかってくることを考えると、本当に必要なことに絞って警察に連絡をしてもらうように、保護者に意識を変えていただく必要があると思われる。</p>

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

西山委員	このことについて、保護者の理解を得るのは難しいことと思われる。
遠藤教育長	他の自治体で実施しているところで、特に支障があったという事例は聞いていない。
西山委員	実施せざるを得ないとは考えるが、心配するところである。
遠藤教育長	実施すると、慣れていくのではないかと考える。
徳永総合支援課長	留守電への切り替え時刻の例示は、小学校で午後6時30分、中学校で午後7時からとなっているが、各学校で部活動の状況や通学に要する時間等に違いがあることから、校区の実情に応じて、各校で留守電に切り替える時刻を設定するように考えているところである。
西山委員	学校によって独自に閉庁日を設けてよいということで、8月16・17日も閉庁日としている学校がいくつかあるが、長期間学校が閉庁となることで支障はないか。
遠藤教育長	支障はないと考える。8月13～15日の3日間は最低ラインであり、市全体として、今年度は3日間から始めるものとして実施し、来年度以降増やしていく予定である。その期間にまとまった休暇をとっていただく。
西山委員	全市一斉ならば抵抗は少ないと思うが、保護者から何故うちの学校だけ閉庁日が長いのかと苦情が来ることにならないか。
橋爪次長	熊本市としては、夏休みに3日間という最低ラインを決めたが、冬休みにも閉庁日を設けることができ、学校独自で閉庁日を決めることとしている。閉庁日は学校行事を全く入れずに、休んでいただくための方策であり、3日間以上の閉庁日を設けることをむしろ奨励するものである。
森委員	閉庁日における休日の取扱いはどうなっているのか。
橋爪次長	8月13～15日については、土曜授業の振替と夏期休暇で

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

	<p>対応している。但し、出勤してはならないわけではないため、出勤をしても閉庁日には外部との対応は行わないこととしている。</p>
森委員	<p>8月13～15日の3日間は、先生にとって休日か。</p>
橋爪次長	<p>勤務を要する日である。そのため、この間勤務しない先生方には土曜授業の振替と夏期休暇等を取得してもらい、結果として休日としてもらうもの。</p>
遠藤教育長	<p>閉庁日に休むか出勤するかは、先生個々人で判断している。外部との対応をしない、外部に対する閉庁日である。</p>
森委員	<p>学校は閉まっていて、電話も通じないが、学校内で教材研究等に取り組んでいる先生が学校内にいることもあるということか。</p>
橋爪次長	<p>そうである。学校からは、学校閉庁日に学校に訪問者があって、電気は点いているが、対応しないという苦情が出たらどうするのかという質問も出たが、玄関に閉庁日について掲示を行ってはどうかと助言を行っている。</p>
泉委員	<p>資料10-3にある取組のうち、モデル校だけで実施しているものもあるのか。</p>
橋爪次長	<p>【取組方針1】「(4)事務機能の強化」については、モデル校を中心に実施している。それ以外は全校で実施している。</p>
泉委員	<p>「(4)事務機能の強化」について、全体の取組になるのは平成31年度半ばを目途としているのか。</p>
橋爪次長	<p>そうである。今年度研究した実績を各学校に普及し、徹底するため、それくらいの時期を予定している。</p>
泉委員	<p>全ての取組を全校で実施するのが、平成32年度からということか。</p>
橋爪次長	<p>一斉に32年度からではなく、できることは学校に取り入れ</p>

<p>泉委員</p> <p>橋爪次長</p> <p>泉委員</p> <p>橋爪次長</p> <p>泉委員</p> <p>日程第5 自由討議</p>	<p>ていく。</p> <p>これらの取組が実際に学校で行われるかの確認も必要である。</p> <p>今回の閉庁日の実施に関し、関係諸団体への啓発がまだ十分に届いていなかったために、今年度は閉庁日の直後にスポーツ大会が組まれていて、学校から閉庁日に練習時間を設けていいか等の問い合わせもあった。今後、今年度学校に届いたそのような依頼等について、アンケート調査を行い、諸団体に対し、行政から来年度に向けての協力依頼を行っていくこととしている。</p> <p>確実に教職員の負担軽減になっていくことが望まれ、それを実現し、良い人材を確保していくことが大事である。</p> <p>実践に移すにあたり、様々に調整しなければならないことがあるとわかり、少しずつ解決しながら、確実に進めていかなければならないと感じているところである。</p> <p>そういうことが表面に出てきたことがとても大事なことであると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>・テーマ：地域の教育活動の促進について</p> <p>今月は、「地域の教育活動の促進について」をテーマに討議を行う。本市の現状について、事務局から簡単に説明をお願いする。</p> <p>《松島 指導課長 説明》</p> <p>・平成30年度全国学力・学習状況調査の「質問紙調査」の「(20)今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問で、中学校において熊本市は全国に比べ非常に割合が低い。</p> <p>・一方、「(23)地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という質問では、小中学校ともに、全国よ</p>

<p>遠藤教育長</p>	<p>りもかなり割合が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問の地域行事と、子どもたちが考える地域行事にずれがある可能性がある。 ・問(20)と問(23)について、政令指定都市(福岡市・横浜市・仙台市)との比較を行ったところ、震災を経験している仙台市はいずれも割合が高い。 ・問(23)で熊本市の小学校だけは突出して高くなっている。しかし、その他に関しては、福岡市も横浜市とも大きくは変わらず、都市部において、地域行事への参加はあまり多くないのではないかと考える。また、いずれも割合の高い仙台市に問い合わせを行ったが、これといった理由は見つけれなかった。 <p style="text-align: center;">《上村 教育政策課長 説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課所管の公立公民館での子どもを対象とした講座の開催状況について。大きく二つあり、一つ目は「子どもチャレンジ公民館」で、子どもをプランナーとし、子ども自らイベント等を企画・運営する機会を提供するもの。もう一つは「子ども充実ホリデー」で、子どもたちにとって充実した休日になるよう、講座を開いたり、公民館施設を開放したりするもの。その他、保護者の子育てに関する講座として、家庭教育学級や子育てサロン等も開催している。 ・総合型地域スポーツクラブについて。本市では、市民の皆さんが「いつでも、だれでも、どこでも」気軽にスポーツに親しめる環境づくりとして、同クラブの育成に取り組んでいる。現在22クラブに3,598人の小中学生が会員となり、バドミントンやバレーボール等のスポーツに参加している。 ・他都市の取組について。福岡市教育委員会では、家庭学習の習慣化や学習意欲の向上を目指して、中学生を対象として実施される放課後等の学習活動を助成する取組として、「地域学び場応援事業」を実施されている。補助経費の4/5、20万円を限度に助成する事業である。 ・その他、様々な民間団体によって、子どもを対象とした事業が行われている。 <p>本日、このテーマを取り上げた問題意識として、本市の教育委員会には社会教育を担当する部署がないことが挙げられる。社会教育とは学校外の組織的な教育活動で、現在熊本市では、生涯学習課で公民館、スポーツ振興課で総合型地域スポーツク</p>
--------------	--

	<p>ラブを所管しており、このようにある程度制度化されている事業については担当課がある。しかし、民間主体の地域での教育活動や、地域や保護者による教育活動、フリースクールも含めた子ども向けの学校以外の教育活動を担当するところがない。その理由の一つとして、市長事務部局の生涯学習課にまとめたという経緯はあるが、それによって全てがカバーできている状況ではない。昨年度、「学びを通じたステップアップ支援事業」という文部科学省の事業で、中卒や高校中退者の高卒資格取得を支援し、就労やキャリアアップにつなげるという事業があったが、熊本市にはどこも担当するところがなく、取り組めていない。社会教育課のような部署があれば、そこで受けることになるが、現在の教育委員会であれば、教育政策課か青少年教育課、市長事務部局であれば、生涯学習課になるわけだが、どこにもきちんとした受け皿がないような状態で、公民館以外で子どもたちに学校外の教育を実施する支援体制が非常に薄いのではないかと考え、今回のテーマとした。地域の行事や地域の活動に参加している比率が少ないという本市の現状には、色々な要因があるかもしれないが、社会教育が充実すれば、改善していくのではないかと考える。</p> <p>保護者から見て、学校外の活動はどのくらい行っているものか。</p>
<p>出川委員</p>	<p>放課後支援の教室などはあると思う。</p> <p>感じていることは、学校に行かないと選択する人たちに対する、学びへの支援体制が他地域と比較して充実していないということである。例えば、関東の自治体には、日中学校に行かない子どもも使える公民館等の施設や、利用料の減額制度があると聞いたことがある。また、児童館は、午前中に乳幼児とその保護者などが利用し、午後は主に小学生が利用しており、中高生対象の施設がない。若年層の妊娠・出産について研究しているが、その層については、学校を辞めて出産をした後の支援がない。働こうと思ってもアルバイトが見つからない、高校に戻る選択肢も見つけられないという状況があり、学校以外のシステムが必要だと思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>学校外ということには、学校に行かない子どもの支援もあるが、学校に行っている子どもの放課後や休日の支援もあると思う。今小学校で部活動を社会体育に変更するというのを各学</p>

<p>小屋松委員</p>	<p>校で検討しているが、熊本市の場合は、部活動から社会体育に移行したクラブに関しては、おそらく教育委員会でフォローを行うことが考えられるが、それ以外の元々ある地域のスポーツクラブについては、スポーツ振興課で担当している。今後、部活動から移行したクラブは教育委員会で所管するが、元々あるクラブはスポーツ振興課で所管すると決めるのは縦割りすぎるのではないかと思う。現在のところ、それぞれの観点からそれぞれで受けている部分もあるが、包括的に引き受けるところがない。この状態であれば、どうしても抜けて落ちてしまうことが出てくると思う。</p> <p>地域の行事の対象者はほとんど小学生で、中学生を対象としたものは少ない。よって、小学生が地域の行事に参加することは多いが、中学生は少なく、先ほどの調査結果になるのは当然のことである。地域で行事を考える際、中学生を対象者としていいものか悩むところである。中学生は部活動等で忙しく、地域の行事に参加する時間がないという実情がある。</p> <p>地域型総合スポーツクラブについて、以前、市がその設立に熱心に取り組んでいた時期があった。ちょうどその頃に地域の体育協会長であったため、先進地域の視察に行くなど、設立について検討を行った。結果的には、自分の住む地域に合う制度ではないと判断した。その理由としては、使用できる施設が小学校の体育館と運動場しかなく、実施できるスポーツが限定されること、また、クラブを支える人手(マネージャーや事務局員)が必要であり、更にその給与も必要となるため、ある程度クラブ員を集めて会費を徴収しなければ維持できず、その実現は難しいということであった。また、いくつかクラブを設けることになった場合、その指導員を確保することも難しかった。現在は、小学校の体育館の夜間開放を利用して、地域でミニバレーやバドミントン、卓球などを実施しており、それぞれのスポーツにボランティアの責任者を決め、出欠の確認や開催・不開催等の連絡を行っている。半期3千円の会費制とし、体育館の使用料を支払っている。</p> <p>地域型総合スポーツクラブの設置は難しいと感じているが、地域での行事を適宜実施し、地域住民が地域行事に足を運ぶ機会を増やし、地域の輪を広げるといった方法をとると、負担感が少ないのではないかと思う。</p>
--------------	--

<p>遠藤教育長</p>	<p>部活動の一部を社会体育へ移行することがあることを踏まえると、きちんと教育委員会として担当する必要があると思う。そこを中心として、それ以外の部活動についてもフォローできる体制を作るのがいいのではないかと思う。</p>
<p>西山委員</p>	<p>理科と社会に関しては、せっかく博物館がリニューアルオープンするので、博物館で学芸員による講座を開催してはどうかと思う。また、北九州市に「いのちのたび博物館」があるが、ここには博物館友の会があり、友の会は独自に活動していて、小中学校を回って様々な教育活動を行っている。この北九州市の博物館の事例を調査していただくと参考になるかもしれない。社会人を含む生涯学習から裾野を広げた学習ができると思う。但し、学芸員の負担が増えることになるかもしれない。少し心配である。もう1点、不登校の児童生徒が行くフリースクール等が十分充実しているとは言えないと感じている。大江に熊本学習支援センターというところがあり、高校生を対象に設立されたフリースクールのようなものであるが、そこに中学校の生徒がかなりたくさん来るようになっている。本来対象外の人たちにまで教育を行っているという実態がある。不登校が増えており、市としても何らかの支援が必要ではないかと考える。</p>
<p>泉委員</p>	<p>地域の取り組みには温度差がある。私が住んでいた地域は、子ども会の活動が活発で、子どもが小学生の間は様々な行事を行った。小学6年生の保護者が中心となって実施するのだが、保護者でイベント等の内容を考え、様々に工夫して実施する必要があった。先ほど紹介があった民間団体で行っているイベント等を活用するシステムがあったならば、もっと面白いものができたし、多くの子どもたちが参加したのではないかと思った。既存の組織である子ども会を活性化するという方法を考えてはどうかと思ったところである。当時実施していたことは、廃品回収を行い、集まったお金で年に何回か子どもたちを遊ばせる機会を設けたり、「水の科学館」で学習したりというものであったが、担当になった保護者が個人で実施するため、次の年につながらない。子ども会を活性化するシステムを作ると、うまく稼動するのではないか。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>県の教育委員会には、子ども会の事務局が社会教育課にあるが、熊本市はどこにあるのか。</p>

上村教育政策課長	生涯学習課にある。
遠藤教育長	子ども会のフォローも行っているのか。
泉委員	子ども会の長になっても、市からのアドバイス等はなかった。
遠藤教育長	<p>参考資料にある、「はつめいキッズ」というのは、発明協会という団体があり、「少年少女発明クラブ」を様々な地域に作っているらしいが、県内では荒尾市にしかなく、熊本市にも作りたいという話があると聞く。このことについて、相談があっても、教育委員会では今のところ担当するところはない。博物館で受けてほしいとの希望もあるようだが、仮に今回博物館で受けることができたとしても、他の相談があった時に同じようにできるかわからない。教育委員会として支援が難しい状況である。来年度、そのような組織を設置する方向で考えたいと思っている。</p>
森委員	<p>今から11年前、私が最初に教育委員になった時には、「社会教育」と「学校教育」という二本の柱があった。次長の下には、生涯学習部長と学校教育部長があり、両輪で進んでいた。現在は、市長事務局と教育委員会で仕分けされており、教育委員会としては、組織上、対応が難しいという問題ができてしまっている。仕分けが行われたのは幸山市長の時で、何故教育委員会から社会教育を剥ぎ取るのかと尋ねたところ、剥ぎ取るわけではなく、今学校は深刻な問題を抱えているため、社会教育まで背負うことなく、教育委員会には学校教育に専念してもらいたい、そのために今後は市長事務局で社会教育を所管することだった。そのような流れがあるが、今教育長が提案されていることは、それとは違い、元に戻したとしても空白の部分があるという議論だと思う。教育委員会で社会教育まで所管したとしても、今までの課の所管の業務と担当してきた内容からして、時代にあっておらず、きれいにフォローできていない部分があるので、それをどうするかということが、今日の教育長の問題意識ではないかと思う。時代のニーズに応じた行政の在り方という意味で考えなければならない。不登校の問題、特に学校に行けずにそのままになって、中高年の引きこもりにまで発展してしまうような事例があるが、そうならない早い段階で</p>

<p>遠藤教育長</p>	<p>どのように手を差し伸べるか、総合的な見地から行政的な手立てを打っていかねばならないという意味では、フォローできていない部分について担当できる部局を作っていくことは必要である。</p> <p>一方、本来の地域というものを考えてみる。先ほど泉委員が子ども会のことを言われたが、妻が民生委員をしており、毎年4月に地域行事を計画する際に子ども会の方も来られるが、今年問題になったことがあった。子ども会から、夏祭りの実施に関し、子ども会は人手もなく、みんな忙しいため、子ども会を夏祭りの手伝いから外してほしいとの要望があった。子どもたちのための夏祭りであるにも関わらず、保護者から協力が得られないことに地域の方も驚かれたことだった。この事例からも、子ども会の組織率はどんどん低くなっている。そこには、女性の社会進出という背景があり、子ども会の核であったお母さん方が仕事を持ち、活動に充てる時間がない状況である。その他地域の力を引き出すとしても、先ほど話に出たスポーツの指導員も仕事のため、早くても夜7時くらいからしか子どもの指導ができない。しかし、子どもに夜7～8時くらいから練習させるのがいいのかという問題もある。皆さんが仕事をしていることと、子どもの教育との関係でずれが出てしまう。その部分も考えていかねばならず、簡単には解決できない。新しい問題が生じる中、人の働き方や価値観も変化しており、行政が音頭をとるべきだが、そうしたからといって解決するわけではなく、別の背景もあり難しい状況である。</p> <p>教育委員会が学校教育に専念できていることは、非常に助かっている状況である。ただ、現在は学校の中と外で二分できる状況ではなく、学校も地域との連携協力が必要になっている。また、1人の子どもを考えた時にも、学校の中の活動と外の活動の境目が昔よりももっと無くなりつつある状況の中で、学校の中のことは教育委員会、外のことは市長事務部局という振り分けが本当にいいのか見直しをする必要がある。場合によっては、生涯学習課の仕事と教育委員会の仕事を見直すことになるかもしれない。大きな流れとして、子ども会やPTAや自治会など、単にそこに住んでいる、その学校に通っているという理由で結びついている、昔からある団体の活動はだんだんと下火になっていて、民間団体の事業やスポーツクラブなど、特定の目的を持った人たちが集まって地域で活動することが増えてい</p>
--------------	---

	<p>る。また、そちらに人が集まってきている。行政はそういうことに対応できておらず、昔からある市民団体等へのサポートが中心になっている。企業で行っていること、愛好者が集まって行っていることなど様々なことがあるが、このようなインフォーマルな組織等に対して、行政がどのように付き合い、支えていくのか検討することも必要になってくる時代だと思う。子ども会やPTAや自治会が無くなっていいということではなく、それ以外の、目的を持って集まる地域の団体を普及させるようなやり方をこれから進めていかなければならないと感じている。単に昔の体制に戻せばいいということではなく、新しい時代に合わせて、少しずつ変えていかなければならないと思っている。そういうことを来年度に向けて検討したいと考えている。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>今でさえ、地域にはたくさんの団体がある。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>昔からの団体も残っているが、新しい団体もできているので、非常に難しい状況である。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>私の住む地域では、それぞれの町内での夏祭りは維持できなくなり、若手による夏祭り実行委員会が結成され、校区で一つの大きな祭を行うことになった。そのように別の形ができていくと、活性化していくと思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>地域の祭以外にも、新しい祭が行われている。それも必要なことであり、それが子どもたちにとって有益であるならば、行政としてサポートを行うことを考えていっていいと思う。 このような課題があることについて、今後検討していきたいと考えている。</p>
<p>〔非公開の審議〕</p>	
<p>日程第3 議事</p>	<p>・議第58号 平成29年度熊本市一般会計決算及び奨学金貸付会計決算について</p> <p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p>

平成30年8月 教育委員会会議録(要旨)【8月10日(金)】

	<p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
<p>・議第59号 平成30年度熊本市一般会計9月補正予算(教育費)について</p>	
<p>〔閉会〕 遠藤教育長</p>	<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成30年8月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>